

日課のご近所ウォーキング。
矢田部さんの畑の前でポーズ！



豊かな実りと助け合いのまち

北ノ台・深大寺北町界隈

福祉事業所で働くメンバーとまちのつながりを紹介するシリーズ、3回目は「わかば第一事業所」が北ノ台地域の一員としてまちに溶け込んで活動する様子を紹介します。

地域の社会資源として 認識される作業所に

武蔵野の面影を残す閑静な住宅街にある「わかば第一事業所」。樹林や畑が点在し、四季折々の自然の恵みを感じられる地域にあります。「日頃の活動を通して、何かあったときに『わかばのメンバーは大丈夫かな』と気にかけてもらえるような関係性が自然とできていっていると感じます」(わかば第一事業所施設長・長尾さん)

福祉作業所が地域との関わりを持つことの大切さを、東日本大震災の経験から痛感したという長尾さん。今の場所に移転した2013年は、ちょうど北ノ台地域の課題を様々な分野の人がつながって協力し解決を目指す地区協議会設立準備委員会の動きがあり、近隣の「希望の家深大寺」と一緒に参加。地域と深く関わるようになったのだそう。「例えばこの地域の一大イベント『北ノ台ふれあい朝市』に出店、地域パトロールへの参加などをしていきます。また、毎年10月末に開催している『わかばまつり』では近隣

住民のみなさんが参加してくださったり、自治会の方に受付を手伝ってもらったり。地域のご縁で、ご近所の「MIEN」さんからお仕事の依頼もいただいています」(P3)

一緒にわくウォーク！

わかば第一事業所

「特定非営利活動法人わかばの会」が運営する知的障害のある人の通所施設。外部講師に入ってもらうことなどにより多様な選択活動を提供し、主体的に活動の幅を広げていけるよう支援。



同じ地域に住む仲間同士 農作業の交流も

準備委員会を経て2015年に発足した「北ノ台まちづくりネットワーク」(北ノ台小地区協議会)会長の矢田部正照さんは、ご自身の畑を作業所のメンバーの農作業体験に開放するなど、日頃から関わりも深い方です。「同じ地域に住む仲間同士」という気持ちで接しています。作業所のメンバーにとっても土に触れる活動は刺激になるようで、ジャガイモやサツマイモの収穫時はみんな目が生き生きして……こちらもうれしくありませんね。わかばさんからも積極的に関わろうとされているので、いい関係が作りやすいと思います。「北ノ台まちづくりネットワーク」の活動も同様で、相互に関わって助け合おうという気持ちが大変。分野別グループに分けて特色

ある活動をしてもらっています」わかば第一事業所メンバーのウォーキングコースでもある「調布市立深大寺保育園」園長の田中賢介さんも「北ノ台まちづくりネットワーク」に準備段階から関わってきたお一人。園は「北ノ台ふれあい朝市」の会場提供という形で協力しています。「保育園を会場とすることで若いご家族が来やすく、また、日頃は保育になじみのない高齢の方にも地域の子育て環境を見ていただけるなど、様々な世代の交流の場になっていると思います。地場野菜販売以外にも福祉等の相談窓口や助産師さんの相談ブースなども設置。園の職員も地域に関心を持ち、関わってくださるようになったと感じています。「ここに保育園があつてよかった」と地域が必要とされる存在を目指して協力を続けたいですね」(田中さん)

「北ノ台まちづくりネットワーク」会長の矢田部さん(左)とわかば第一事業所の長尾さん(右)。隔月の役員会のほか日頃からお付き合いがあります。



自然に恵まれた深大寺北町界隈。「わかば第一事業所」のメンバーは毎日楽しくウォーキングしています。



広い園庭のある市立深大寺保育園。「北ノ台ふれあい朝市」では園庭はもちろん室内も開放。



調布市立深大寺保育園
園長 田中賢介さん

北ノ台まちづくりネットワーク

2015年2月、市内15番目の地区協議会として設立。北ノ台地域に住む人たちが、相互に助け合い協力しながら、さらに住みやすく安全で安心なまちづくりを推進していくための「地域のネットワークづくり」を基本姿勢に据えて活動。地場野菜・花などを販売する春と秋の「ふれあい朝市」、地域交流の場である「ふれあいサロン」、地域の美化活動など活発に活動。



ちよふ地域コミュニティサイト
ちよみっと 紹介ページへ

北ノ台・深大寺北町エリア

